

分析から、 文が通る。 水源が、

で半導体開発チー 富士通へ就職し、川崎市の工場 修士課程を終えて89年4月に 生まれていく ムに配属され

博士課程で流れ出す『源流』 営を継ぐかどうかは別にしてメ る」と聞き、化学工学を猛勉強 キについて知っておこうと決 当時の富士通は国内外で半 社内で研究テーマを探す。 試験に通って、 会社の経 0)

な日々が1年半くらい続き、 宅して寝て、 午前2時ころまで書き直し、 が流れ始めていく。 て助かった。メッキに関する新 ツキ装置をつくることへ重点が ッキだ。この間、 知識が蓄積され、 研究室にある器具が使え 作室だった。 まだ世の中にないメ テーマは、 翌朝に出社。そん 研究室は事 不良品の もちろん 『源流』 論

業家の子弟を受け入れ、後継者 程へ進んだ。そのメー の就職を断り、 勧めた大阪府の電機メー で社長の父・忠氏(現会長)が するとき、清川メッキの創業者 「大学院の試験では何人か落ちように乗るのが、嫌だった。 た。そんな「レー として修業する場を提供してい 87年3月に同大工学部を卒業 大学院の修士課 ル」に当然の カーは創

れたな」と苦笑し、技術部門をにみえない。「おふくろにやらキへ入ると、父の体調は悪そう 受け持った。

やがて、

冒頭で触

福井県を初めて出た就職

きよかわ・はじめ 1964年4月生まれ、福井市出身。 子どものころは学校から帰ると、 すぐに自宅向かいの神社の境内へいった。 いけば遊び友だちが必ずいて野球ができた。 境内が狭いので打球が外まで飛んで、 隣家の窓ガラスを割ってしまい、叱られた。 中学校は同じ学年に生徒が500人もいて、 市内のいろいろなところで行き交うが、 一度も話したことがないのですれ違うだけ。 バスケットボール部の練習は走るばかりで、 長距離に強くなって学校対抗マラソン大会や 1500メートル走の選手に選ばれた。 東京の大学へいきたかったがうまくいかず、 旅行以外で県外へ出たのは富士通就職だけ。 富士通では辞める1年くらい前から休日に、 買ったカートを小型トラックに積んで、 千葉県のサーキットへいって走らせた。 カーブで横にかかる重力には筋肉痛になる くらいの全身運動で、首も鍛えられた。 中学校時代からの映画好きで、

りだった。でも、そうすると新退社し、清川メッキへいくつも いか、 母から電話があり、父の体調が 加させてもらおうと思ったら、 開発プロジェクトが決まる。 体の開発にも取り組めた。 人社員も何でもやらされ、半導たのは先輩1人と自分だけ。新 よくないから帰ってきてくれな かける。退社を決断した。 ることになり、チームに迷惑を しいプロジェクトを途中で抜け 3年目を迎えるころ、新しい と言われた。5年したら 参

元気で母にやられた 父の体調が悪い」 帰郷して92年1 て帰郷すると 月に清川メッ

居宅。

建物はいまも残り、

後ろ

トヨ子さんと創業した。 清川メッキ工業)を設立。 前年に清川メッキ工業所 会社を選び、肇さんが生まれる をみて市内に少なかったメッキ 社。起業を志し、職業別電話帳

自宅は1階が事務所、2階が

防まで田んぼ。自宅から歩いてに工場があり、その先は川の堤

で工業化学科を選ぶ だ,と言われたことはない。この間、父に一度も「会社を 母や社員には言われて、

み、得意な科目が化学だったの る課題が持つニー こう

あれば商談は進む。

に勤めていたが、

20代初めに退

まれる。父母と弟2人の5人家

父・忠さんは繊維メ

カー

1964年4月、

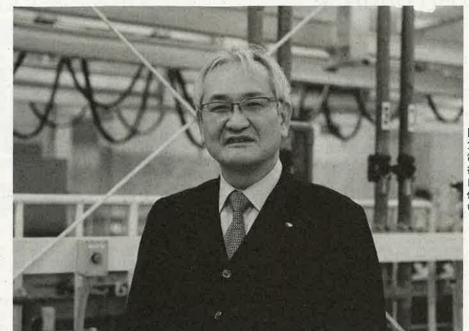
福井市で生

使うといいかを考えてくれた。 があるぞ」と不思議がり、 の妻と2人で展示した。みた客 展があった際、結婚したばかり メッキは東京・晴海で国際技術 いま社員が360人いるが、 「何だ、水をはじく金属の 技術展示会へ出す。撥水 何に 膜

2010年1月に社長になっ間1500億個に近づいている。 営業部隊はゼロ。技術展へ参加 体など電子部品のメッキは、年 会いを待つ。この手法で、半導 い」と思ってくれる企業との出 れをうちの製品の生産に使いたし、新しい技術を披露して「こ ずっと技術部長を兼務

清川メッキ工業

清川 肇



「難題も断らない」と、 父は言い続けてきた。 電子部品のメッキも、 後から技術開発した。 自分もそう言ってきて 他社ができない地平も いくつも切り拓いた

井大学の大学院工学研究科へ

出せば、客も納得する。

遅いと

あった。その回答と対策を早く

3割はメッキ側に原因も

工場までやってきて、

メッキ

0

メッキ装置の開発や実験を

博士論文をまとめた。

過程を調べ、

ノウハウまで教えるように求め過程を調べ、清川メッキ独自の

金属などに金や

仕事を終えると、市内にある福 福井市和田中の本社で夕方早く

994年から95年にかけて

した素材の側に問題がみつか

の後も大学院で装置開発 自分で考える社風に

清川メッキ工業を国内

置をつくればい でそれが使え、 機が必要だ。

も得て解析に通っていたら、先置をつくればいい。学校の許可

トル) 単

不良品の解析は、高価な分析

高島先生の研究室

あとは必要な装

ペンが入ってきた

論文案を出すと博士課程へ誘われ

外へ流出する懸念があった。

る。放置すれば、

ノウハウが社

清川肇さ

自主・自力を求めた。 先生は電池分野が専門で、 の博士課程の日々が、 屈指のメッキ企業へ導いた。こ 位の超微細な電子部品にもメ を開発し、半導体などナノメー ど特性を活かす機能メッキも 膜に使う素材の電気の伝導性な 空気中や水中の酸素によって錆 装置は自分でつくりなさい」と、 かは自分で考え、 に共通点もあるが、 とメッキには使う化学反応など 院の修士課程でも世話になる。 『源流』になった。 んのビジネスパーソンとしての る。この機能メッキで独自技術 びるのを防ぐ防食用のほか、 銀の薄い膜をかぶせる装飾用、 指導を受けたのは高島正之先 メッキには、 博士課程へ入る前、先生の研 ル(10億分の1メー

究室で清川メッキへきた不良品 に関するクレ 7割は客がメッ ムの原因を解析

実験に必要な

のは辛い。でも、

先生はい

つも

が、

論文を書く

夜10時まで残って、

相談に乗っ

「何をやる

究を重ねた。

てから大学へいって、

実験や研

ら午後4時まで会社で仕事をし 3年目は研究を優先。朝8時か

それで、

冒頭のように2年目と

の原因を調べていたら、

先生に

いつ研究するのだ」と叱られる

と誘われ、93年4月に入った。 生に「博士課程に入らないか」

ただ、その後も1年近く不良品

「そうなるのだろうな」と思い ながら過ごしていた。

面々は応援に派遣され、残っ

勧められて、

応じた。

れたように博士課程への入学を

をかけることができた。 ンの底の板に使うと静電気が起 して をはじくフッ素樹脂の粉を浮か 表面にハスの葉と同じように細 ッ素にも詳しくて、 開発した独自技術に、水をはじ 3分の1くらいの力でアイロン てもすぐにはがせる。軽くて、 きないし、 べてメッキし、粉を突起にまぶ かな突起をつくって、 く撥水メッキがある。先生はフ 大学院で、 いくと開発できた。アイロ ビニー 高島先生と共同で ルがくっつ メッキする 溶液に水

現

母

営業活動はゼロ新技術を披露して

高校から福井大学工学部へと進

た。市立成和中学校、県立足羽 約10分の市立和田小学校へ通っ

そのシーズが、企業などが抱え役に立つシーズ(種)を生む。 いう研究開発は、 ズ 会社の寮からは川崎の映画館が近かったが、 (解決策) せっかくの首都圏住まいなので銀座で観た。 何かに

> に開発したが、使いたい企業が も、どう使われるかは分からず と適合すると、新たな製品や ビスが生まれる。 撥水メッ

だから、開発した技術や試作

てから、 分で装置をつくる」という で流れ始めた「自分で考え、 は醍醐味で、「死ぬまでやり 誰もやっていないことをやるの している。 っても、これだけは続けたい と言い切るから、 先々、 社長の座を譲

Asahi Shimbun Weekly AERA 2025.3.3 56

流』からの流れは、

まだまだ勢

ペンで添削して「明日までに書 内容にします」とみせると、 てくれた。論文案を「こうい

で福井大学などを訪ねます

次回は清川肇さんの『源流Ag